

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 4 区分
【発行日】平成 17 年 7 月 28 日 (2005.7.28)

【公開番号】特開 2003-170518 (P2003-170518A)
【公開日】平成 15 年 6 月 17 日 (2003.6.17)
【出願番号】特願 2001-375264 (P2001-375264)
【国際特許分類第 7 版】
B 3 2 B 7/02
【F I】
B 3 2 B 7/02 1 0 4

【手続補正書】
【提出日】平成 16 年 12 月 10 日 (2004.12.10)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

ポリスチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリエステル樹脂またはアクリル樹脂からなる熱可塑性樹脂シートの片面または両面に、ポリスチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリエステル樹脂またはポリアミド樹脂からなる熱可塑性樹脂フィルムが熱ラミネートにより貼り合わされ、該熱可塑性樹脂フィルム上に導電コート層が積層されていることを特徴とする導電性シート。

【請求項 2】

熱可塑性樹脂シートがポリスチレン系樹脂からなり、熱可塑性樹脂フィルムがポリスチレン系樹脂またはポリプロピレン系樹脂からなることを特徴とする請求項 1 に記載の導電性シート。

【請求項 3】

熱可塑性樹脂シートがポリスチレン系樹脂からなり、熱可塑性樹脂フィルムが熱接着可能な接着層を有するポリプロピレン系樹脂フィルムであることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の導電性シート。

【請求項 4】

ポリスチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリエステル樹脂またはアクリル樹脂からなる熱可塑性樹脂シートを押出しつつ、導電コート層を積層したポリスチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリエステル樹脂またはポリアミド樹脂からなる熱可塑性樹脂フィルムの導電コート層とは反対の面を、該熱可塑性樹脂シートの片面又は両面に熱ラミネートすることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の導電性シートの製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 6
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 6】

即ち、本発明は、以下の (1) ～ (4) の態様からなる。

(1) ポリスチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリエステル樹脂またはアクリル樹脂からなる熱可塑性樹脂シートの片面または両面に、ポリスチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリエステル樹脂またはポリアミド樹脂からなる熱可塑性樹脂フィルムが熱ラ

ミネートにより貼り合わされ、該熱可塑性樹脂フィルム上に導電コート層が積層されていることを特徴とする導電性シート。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(2) 熱可塑性樹脂シートがポリスチレン（以下「PS」ともいう）系樹脂からなり、熱可塑性樹脂フィルムがポリスチレン系樹脂またはポリプロピレン系樹脂からなることを特徴とする前記（1）記載の導電性シート。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

(3) 熱可塑性樹脂シートがポリスチレン系樹脂からなり、熱可塑性樹脂フィルムが熱接着可能な接着層を有するポリプロピレン（以下「PP」ともいう）系樹脂フィルムであることを特徴とする前記（1）または（2）に記載の導電性シート。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

(4) ポリスチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリエステル樹脂またはアクリル樹脂からなる熱可塑性樹脂シートを押出しつつ、導電コート層を積層したポリスチレン系樹脂、ポリプロピレン系樹脂、ポリエステル樹脂またはポリアミド樹脂からなる熱可塑性樹脂フィルムの導電コート層とは反対の面を、該熱可塑性樹脂シートの片面又は両面に熱ラミネートすることを特徴とする前記（1）～（3）に記載の導電性シートの製造方法。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】